

職場のアルコール問題



発行元：豊田市 健康部 健康政策課
電話（0565）34-6723
E-mail kenkouseisaku@city.toyota.aichi.jp

日本福祉大学中央福祉専門学校 田中和彦

ある飲み会での場面・・・

佐藤さんは入社2年目の若手社員です。営業部に所属しています。先輩にもかわいがられ、仕事にも慣れてきているところです。今日は、営業部での飲み会。佐藤さんは、実はお酒が飲めません・・・。佐藤さんの上司である寺本係長は、毎回佐藤さんに、お酒を勧めようとします。

寺本さん：おい、佐藤くん、何を飲んでいるんだ？

佐藤さん：係長、ご存じのとおり、私は酒が飲めませんので、ウーロン茶をいただいています。

寺本さん：なんだと！！ウーロン茶とは軟弱な！！営業マンは酒を飲んでなんぼの世界だ！ちょっとぐらい仕事ができるようになったからと言って、そんなことではいかんぞ！気合が足りんのだ。男なら日本酒を飲みなさい！！

佐藤さん：いえ、係長。私が日本酒なんて飲んでしまったら、みなさんに迷惑をかけてしまいます。本当に勘弁してくださいよ～。

寺本さん：俺の酒が飲めんというのか！！飲め！飲まんか！！酒というものは飲んでいっているうちに強くなるんだ！！

佐藤さん：そんな・・・

みなさんの職場でこのような場面に出会ったことはありませんか？佐藤さんと同じ立場のように、飲めないお酒を断れない状況になったり、逆に寺本さんのように、お酒を飲めない人に無理にお酒を勧めたりしたことはありませんか？

アルコールは、社会の潤滑油とも言われ、人間関係の形成や集団の連帯感をもつために、またストレス解消の手段として利用されてきました。その意味ではアルコールのもつ「効用」ということを、私たちは体験的に理解しています。社会人として「酒を飲むこと」はごく当たり前のこととして、疑問を持つことなく過ごしてしまいがちです。まず私たちは「アルコール」に関する正しい知識とリスクを知るべきでしょう。

アルコールを飲める人と飲めない人がいる！

「あの人は酒が弱い」という人がいますよね。アルコールを飲むと顔が真っ赤になる、動悸が激しくなり苦しそう、トイレにこもってしまっている・・・このような人はもともと体質的にアルコールを受け付けられない人です。アルコールは肝臓で分解されますが、その際のALDH2という酵素の働きが体質によって違います。日本人の約4割は、このALDH2の働きが弱い体質とされています。当たり前のことですが、本人の「根性」や「努力」が足りないということではありません。もって生まれた体質ですのでその体質を知ることが重要となります。特に4割のうちの1割の人は、全くアルコールを受け付けられないという「飲めないタイプ」です。

訓練すれば飲めるようになるという幻想！

アルコールを全く飲めない人が訓練しても、生まれつきの体質は変わりません。多少飲める人（ALDH2がわずかに働く人）は訓練すれば多少は飲めるようにはなるようですが、それは体質が変わるということではありません。無理な飲酒は、肝臓をはじめとするさまざまな臓器障害の要因となることもあります。訓練すればアルコールを飲める体質に変わるというのは幻想なのです。

アルコールハラスメントとは？！

飲み会で飲酒を強要することは、「アルコールハラスメント」になります！

飲酒の強要は、アルコールハラスメント（通称：アルハラ）となり、人権侵害行為です。以下にアルハラ of 定義を記しておきます。（出典：イッキ飲み・アルハラ防止キャンペーンホームページ）

アルハラとはアルコールハラスメントの略。飲酒にまつわる人権侵害。命を奪うこともある。

① 飲酒の強要

上下関係・部の伝統・集団による、はやしたて・罰ゲームなどといった形で心理的な圧力をかけ、飲まざるを得ない状況に追い込むこと。

② イッキ飲ませ

場を盛り上げるために、イッキ飲みや早飲み競争などをさせること。「イッキ飲み」とは一息で飲み干すこと、早飲みも「イッキ」と同じ。

③ 意図的な酔いつぶし

酔いつぶすことを意図して、飲み会を行うことで、傷害行為にもあたる。ひどいケースでは、はくための袋やバケツ、「つぶれ部屋」を用意していることもある。

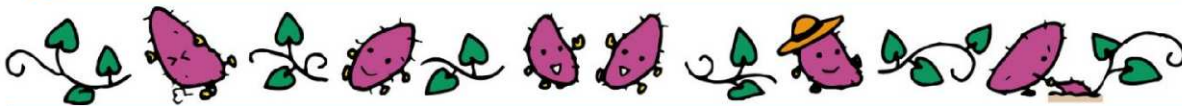
④ 飲めない人への配慮を欠くこと

本人の体質や意向を無視して飲酒をすすめる、宴会に酒類以外の飲み物を用意しない、飲めないことをからかったり侮辱する、など。

⑤ 酔ったうえでの迷惑行為

酔ってからむこと、悪ふざけ、暴言・暴力、セクハラ、その他ひんしゆく行為。1つでも当てはまったらアルハラになります。

飲み会という場所は不思議な空間ですね。お酒を介して連帯感を感じ、仲間意識を強く持つことができる…時には本音をぶつけ合うことも。でも、それはアルコールという「薬物」を摂取する結果としてできるのかもしれませんが。本当に大切なことは、お酒の力を借りなくても連帯感を感じることができる、仲間になれるという職場での関係づくりなのだと思います。



佐藤さんのその後はどうなったのでしょうか・・・。

佐藤さんは、アルコールハラスメントのことをインターネットで知り、上司に相談しました。営業部長の戸田さんは、「確かに営業部全体の風潮として、酒を飲んで当たり前ということはある。でもそれは飲めない体質の人にはつらいことだな。これからの飲み会は飲めない人にも楽しく参加してもらえるものとなるように、みんなで考えていこう。」と言って営業部の課題としていくことを約束してくれました。そして、戸田部長は声を潜めて佐藤さんに言いました。「佐藤さんに言うことではないけど、寺本係長の最近の様子が気になっているんだ。取引先や部署からも『寺本さんはアルコールのにおいがする。』と言われていてね。本人に聞いたとしても『大丈夫です。』としか言わないし、困ってるんだ・・・。」

寺本係長はどうしてしまったのでしょうか。次号をお待ちください。